

体育施設の現状と今後のスポーツ振興について

▷問い合わせ先＝生涯学習課体育振興係(☎内線273)



供用を再開した市営球場

赤崎グラウンド

被災し、ガレキの仮置き場となっていた旧赤崎小学校跡地を整地し、平成26年度から新たな社会体育施設として供用を開始しました。なおこのグラウンドは、Jリーグの小笠原満男選手を中心とする「東北人魂」に全面協力いただき、野球、サッカーなどが利用可能な多目的グラウンドとして整備され、震災により多くの運動場がその機能を失われるなか、貴重な野外運動場として、スポーツ・レクリエーションの拠点へと発展してきました。

平成29年度は、日本スポーツ振興センターなどからの助成や、日本プロサッカー選手会の寄附を受け、念願であったグラウンドの人工芝整備を行うとともに、国の地方創生拠点整備交付金を活用して、ロッカールームを備えたクラブハウスや観客席を整備しました。これにより、赤崎グラウンドはスポーツ施設としての機能が飛躍的に向上し、市内外の利用者を受け入れることができる、新たなスポーツ交流拠点として生まれ変わりました。

平成29年12月に小笠原選手参加のもと、プレ・オープンイベントを開催、たくさん子どもたちと人工芝グラウンドの完成を祝いました。平成30年4月にはクラブハウスが本格供用の運びとなり、サッカーやグラウンドゴルフなどの練習、大会の会場として利用されています。

また地元では、グラウンドでのイベント実施に合わせて復興市を開催するなど、地域のにぎわい創出にも一役買っており、これまで以上に地域に根ざした社会体育施設となりつつあります。

本年度は、より安全に競技に取り組めるよう、防球ネットの設置を予定しています。



人工芝で思い切りプレーする子どもたち



被災直後の赤崎小学校



上空から見た赤崎グラウンド

(3) 広報大船渡 30. 7. 5(No. 1130)

▷問い合わせ＝市役所☎0192②3111

市営球場

市内の社会体育施設は、東日本大震災による被災、あるいは応急仮設住宅の建設などにより、その利用が大きく制限されてきました。市では、早期の供用再開を目指し計画的に復旧工事を進めてきましたが、平成30年7月の市営球場供用再開をもって、主要な社会体育施設の復旧工事が完了しました。

本号では、主要な体育施設の現状をお伝えするとともに、今後の活用など、取り組みについて紹介します。

昨年度で応急仮設住宅撤去・グラウンド復旧工事が完了し、本年度は昨年度に引き続き天然芝の養生作業を進めてきました。

また、復旧工事にあわせて、地震により大きな被害を受けた、躯体部分のクラック補修や観客席ベンチの更新、ダッグアウト周辺部の塗装、トイレ配管の修繕などを実施したこと、震災前の本来の球場の姿を少しずつ取り戻してきました。

さらには、内外野のラバーフェンス更新、また側溝のフタやダッグアウト周辺のコンクリート部分に緩衝材を設置するなど、安全面に配慮した整備を行い、7月から供用を再開したところです。

これにより、東日本大震災以降休止していた市内の主要な社会体育施設は、復旧を果たしました。



安全対策が施されたダッグアウト周辺



応急仮設住宅134戸が撤去されました

(2)